道徳学習　自然ってすばらしいなあ！　３－（１）

導入　総合の時のファイルを見て、今から観察したい植物を決め、その様子を話し合う。　１５分

総合の時の活動の様子や感じた気持ちを想起させる。

総合学習から

総合学習と道徳学習が関連しているというのは、総合学習の時の豊かな体験活動の、「心の動き」が道徳の時間の時に生かされるということです。

植物の生長のすばらしさを感じ取らせるために、あえて、3週間以上も間を空けただけに、導入の時間では、たっぷり時間をとって、総合学習の時の活動の様子や気持ちを思い出させることにしました。ここを急ぐと、「やらされる実物観察」になってしまいます。

ファイルを開いて、問題用紙や回答用紙、振り返りカードを読んでいるときに子供たちから出るつぶやきに耳を澄ませます。たった3週間しか経っていないのだけど、「わあ、なつかしい！」という言葉などを捉えて、「あの時の草や木は今どうなっているかなあ？」と問います。そして、「どうなっているか、今から見に行こうか？」と実物観察に誘います。すぐに子供たちは、「行く！行く！」とこちらの投げかけにのってきました。

実物観察をしたいという気持ちを引き出す。

そこで、「何の植物を見に行きますか？そして、その植物は今どうなっていると思いますか？」と発問しました。何かの活動の前に、予想を訊ねるというのは、子供たちの意欲を高めるための常套手段です。

右の板書のように、総合の時に知った植物の名前が並びます。「その時の花は枯れている」「生長している」などの予想が出てきました。少しでも早く教室を飛び出したい子供たちを少しじらします。

めあてを決め、予想を立てることで、体験活動への意欲を高める。

何の植物を見に行きますか？そして、その植物は今どうなっていると思いますか？

- ●タンポポ→枯れているかな？白いわた毛ができているかもしれないな。
- ●キウイの花→枯れているにちがいない。
- ●ウメの実→きっと赤くなっている。梅干しみたいに。
- ●マリーゴールド→まだ咲いているよ。今日も朝、見たからね。

展開　校庭に出て、いろいろな植物のその後を観察する。　２０分

いつの間にか咲いていたアジサイ

自由な実物観察の時間を取り、一人一人の問題意識に叶った体験活動ができるようにします。ぱっと校庭に出ていった子供たちは、いろいろな植物を観察しました。

- ●いつの間にか、こんなに丸くて、大きなアジサイが咲いている。全然気付かなかったよ。家庭科室の前は、毎年咲いているんだね。色は、これから変わるのかなあ？時々、見に行くことにしたんだよ。
- ●シロツメクサはあの時と同じようにしっかり生えている。たくさんの人に踏みつけられるけど、たくましく育っているんだね。
- ●職員室の前のカナリーヤシは、相変わらずどんと生えているね。あの時のままだよ。
- ●カイヅカイブキの白い小さな花は、すっかりなくなっているんだね。でも、実のようなものは、なっていないなあ。

教師も一緒に校庭に出て、子供たちの感想を共感的に受け止める。

そうだねえ。長く咲いている花、すぐに枯れてしまった花、いろいろあるんだね。植物って不思議だねえ。

かわいい実ができていたキウイ

タネができていたフヨウの花

観察中に何人かの子供たちが、「先生、来て！来て！」と呼びに来ました。何があったのだろうと、どきどきしながらついていくと、そこは、キウイの棚。

なんと小さな小さなキウイの実がなっていたのでした。満開の花の時が3週間前。まだあまり日にちが経っていないのに、大人の人差し指の先くらいのかわいい実がなっているではありませんか。

この事実には、さすがの子供たちもびっくりしたようです。きれいな白い花から、かわいいキウイの実。子供たちと一緒に驚いたのでした。

また、総合学習の時に咲いていたフヨウの花は、どうなっていたでしょうか。フヨウの花は、1日でしぼむのですが、その後実がなり、もう種ができていました。そしてその種は、もうほとんど散っていたのです。

新たな体験、新たな気付きを得させる。

活動が停滞している子供がいた場合は、教師が一緒に観察して、教師の感じたことや考えたことを話しかけたり、子供の疑問や驚きを引き出したりします。また、そのほかの子供がしていることや観察している場所、植物を示唆して、一緒に活動するように促したりします。

早く観察が終わった子供へは、教室に帰って、感想をプリントに書くように予め指示をして教室を出すことも大切な支援です。

一人一人の活動状況に応じて、支援をする。

終末　道徳プリントに、観察して「わかったこと」「感じたこと」「新しく発見したこと」を書く。　１０分

最後の活動は、「感想」から「自然の神秘」や「自然のすばらしさ」を引き出すことです。

まずは、一人一人が道徳プリントに感想を書きます。どの子供も楽しく活動したので、スムーズに書き始めることができました。書く観点は、「わかったこと」「かんじたこと」「新しく発見したこと」の3点です。

右の子供は、株を長持ちさせるために摘んであったマリーゴールドの花をたくさん拾ってきました。そして、「どうして、こんなに花がおちているのだろう？」という疑問を書いていました。また、自然に落ちていたウメの実を二つ拾ってきていました。完熟の桃のような甘いにおいのするウメの実を食べたいとしきりに話していました。子供でなくてもそう思うのは、実物に触り、においをかいだからこそです。

感想を書かせたり、発表し合ったりするときに教師がする支援は、大きく三つです。

⑴ 3週間前と比べて変化したのか、しなかったのか、そして、変化したとするとどこがどうなっていたのかをもとに感想をかかせるということです。本当に観察したからこそ分かったこと、感じたこと、考えたことを書くことに意味があると考えます。

⑵ 「変化させたもの」は、いったい何だったのかを想像させるということです。感想を発表させた後、「どうして、そう変化したのだろう」と切り返します。花から実になっていた事実を知った子供は、「太陽や雨が実を太らせた」と言います。「よく分からないけど、自然には、そんな力がある」と答えた子供もいました。どちらも正解です。大切なのは、植物も私たち人間もいろいろなものが日々生長していると言うことです。

⑶ 最後に、「これからも時々校庭の植物をみたり、触ったり、変化を見付けたりしてみよう。もっとおもしろいことに気付くかも知れないよ」とこれからの生活へつなぐことも大切です。

事実
↓
感想
↓
よさの実感
今後の生活へ